

第5 見えてきた課題

1 現状と原因

今後、人口減少社会が進む情勢やアンケート調査等の結果、第8期計画の施策取組を踏まえて、目指す姿（中目標）に沿い課題を整理します。

- 目指す姿：第8期計画の「目指す姿」（中目標）
- 施策：目指す姿に対し実施した施策（小目標）
- 現状：現在、課題となっていることは何か



- 課題発生に至る原因：目指す姿になっていない原因は何か

(中目標) 目指す姿	施策 (小目標)	現状 (課題)	評価 (原因)
高齢者が健康で生きがいのある生活を営めるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ①介護予防と健康づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・重度化防止の推進 ・健康増進の推進 ②高齢者の社会参加の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学習等の提供 ・地域活動の充実 ・就業機会の充実 ③認知症高齢者対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての普及・啓発 ・相談・支援体制の充実 ・サポート体制の充実 	<p>転倒への不安を感じている方が、アンケートで52%程度いる。</p> <p>季節毎の元気教室の参加率は高いなど、健康維持の意欲は高い。趣味や生きがいを持っている方も50%の割合である。だが、毎回同様の参加者の割合が多い。</p> <p>生活習慣病・筋骨格系疾患による要介護状態に至る割合が高い。</p> <p>認知症窓口が浸透し、認知症状を感じている方の割合も前回調査時に比べ2割低下した。</p>	<p>コロナ禍により令和2年2月頃から5類感染症になる令和5年5月まで、外出自粛が多かった。その後は外出意欲の改善意向がみられる。</p> <p>運動と栄養管理により、生活習慣病・筋骨格系疾患・認知症の悪化予防につながる事の理解浸透を図る。</p> <p>フィットネス開設・介護予防活動など運動の機会増加につながっている。</p> <p>認知症啓発を通して、認知症サポーターや認知症カフェの関心が高まる。</p>

(中目標) 目指す姿	施策 (小目標)	現状 (課題)	評価 (原因)
地域における支え合いのまちづくり	④安全・安心な暮らしの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅福祉サービスの推進 ・見守り体制の推進 ・権利擁護の推進 ・相談体制・支援体制の推進 ・地域で支え合う体制の整備 	<p>地域住民の有志による健康づくりや趣味等の地域づくり活動への参加意向率はアンケートで50%と高いが、同時に、地域住民の有志による地域づくり活動への企画・運営(お世話役)に参加したくない意向率は50%を示す。</p> <p>除雪・見守り支援等の在宅福祉サービスにより、在宅生活の維持がみられる。</p>	<p>コロナ禍の中で新しいサービスの発掘活動は難航するも、サロンや生活支援ボランティアが立ち上がった。</p> <p>今後、軽微な生活の困り事や地域サロン等の活動立ち上げにより、高齢者の自立生活が高まる。</p> <p>生産年齢人口の低下による担い手不足にあたり、看取りの啓発等を通し、住民が自助・互助の意識が高まりつつある。</p>
住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり	⑤医療と介護連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の普及・啓発 ・医療・介護従事者の研修 	<p>現在、介護・福祉・医療人材が不足している。近隣市町をはじめ、定員数まで利用できない状況がある。特に在宅サービスの人材不足が目立ち、要介護1～3程度の方は家族が在宅介護に負担を感じている。また、在宅介護への不安やコロナ渦等を考慮し、施設偏重の意向が強く、介護給付費も高い。</p> <p>看取りの啓発を通し、住民の医療・介護の地域実情の理解が深まる。</p>	<p>介護人材等の不足の課題には、処遇改善等の実態調査等をはじめ、課題発見が重要。</p> <p>軽度者は家事・外出支援、要介護1・2の方は認知症ケア・入浴介助・外出、要介護3以上の方は認知症ケア・排泄・入浴介助・ショートステイに対する介護への不安が高かった。</p> <p>在宅サービスの充実により、在宅介護の割合が高まると想定される。</p>
⑥介護サービスの質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の周知 ・介護人材確保の支援 ・介護保険制度の円滑な推進 ・介護給付の適正化 ・災害や感染症対策の体制整備 			